

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<研究課題名>

指趾発生内軟骨腫における病巣搔爬術後の観察研究

<研究機関・研究責任者名>

日本大学医学部附属板橋病院 整形外科 (研究責任者)大幸 英至

<研究期間>

承認日 ～ 西暦 2018年 12月 31日

<研究の目的と意義>

内軟骨腫の多くは指趾の骨に発生し痛みや骨折を伴ったものは手術が勧められる。手術は病巣部を十分に搔爬することが重要である。方法はまず骨皮質に穴(骨孔)をあけ、骨鋭匙と呼ばれる先端がスプーン型した器具で腫瘍内部を十分に搔爬する。しかし、十分に搔爬するには鋭匙が入るだけの大きな骨孔が必要である。そのため、指趾の骨は小さいため大きな骨孔は術中・術後に骨折の危険性を伴う。また、骨鋭匙の先端は柔軟性が乏しいため骨孔が小さいと搔爬が不十分になる可能性がある。そこで我々は骨鋭匙にて搔爬後に追加処置として注射針の先端を形成し搔爬するための器具として使用している。今回我々は注射針の先端を形成した搔爬器具を用いて指趾に発生した内軟骨腫における病巣搔爬術した患者さまを後ろ向き観察研究で検討することである。本研究結果により指趾発生内軟骨腫の標準的搔爬器具の一つとなる可能性がある。

<利用する試料・情報の項目>

病巣搔爬術を行った指趾発生内軟骨腫の方の検査データ、診療記録、画像記録

<対象となる患者さん>

2014年4月1日～2018年4月30日の期間に当院整形外科で指趾発生内軟骨腫における病巣搔爬術を施行された方

<研究の方法>

追跡調査で病巣搔爬術前後の臨床症状、画像所見について検討を行う。

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町30-1)

整形外科 氏名:大幸 英至

電話:03-3972-8111 内線:(医局) 2493 (PHS) 8975